

図書部 国語科学習指導案

令和5年 11月 8日(水)

第5校時 柳沢小学校5年2組

指導者 本庄光太郎

研究主題について

西東京市市小研図書部の研究主題は「豊かな読書活動」である。まず授業者は、「豊かな読書活動」をしている児童がどのような状態なのか詳しく捉える必要があった。

高学年の読書の目的は学習指導要領には以下のように述べられている。

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。

日常的に読書を親しむとは、読書の楽しさや有効性を実感しながら、日常生活の中で主体的、継続的に読書を行うことである。

読書が自分の考えを広げることなどに関与することに気付くとは、読書によって、多様な視点から、物事を考えることができるようになることに気付くことである。

このことから、「豊かな」という部分には多様な本を読み、考えを広げることができる、「活動」には、日常的に当たり前本を様々な場面で活用することができるという意味があると解釈し、そのような児童を目指すと考えた。

また、西東京市の図書館長の方からお話を伺った際、図書館員の基本的な役割は、「子どもと本を結びつけること、つまり、子どもに書物に対する興味をもたせ、読書の習慣が身に付くよう助けることにある。」と伺った。指導要領の目標と一致していることも踏まえ、教員は図書館員と協力して児童に働きかけることでさらに「豊かな読書活動」に近づくと考えた。

児童の実態調査結果および考察

「豊かな読書生活」という目的に対して有効性のある手立てを考えるために、アンケートを行った。

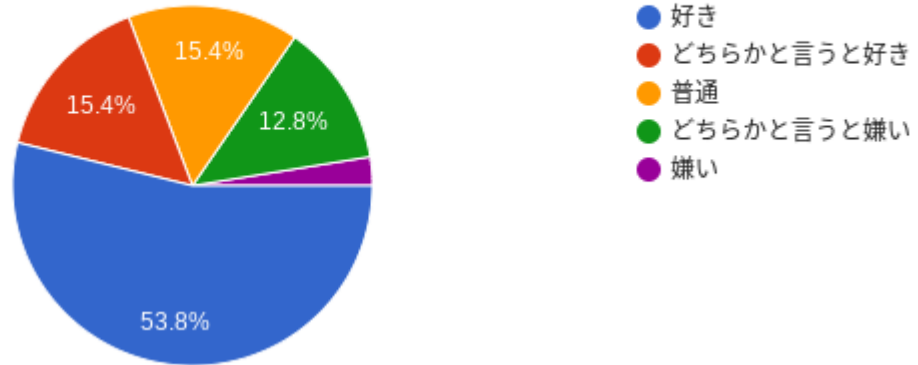
- ・調査方法（グーグルフォームス）
- ・対象（研究授業 第5学年2組 児童39名）
- ・事前調査時期（7月下旬）

【図書についてのアンケート】

問 1

本読むことは好きですか

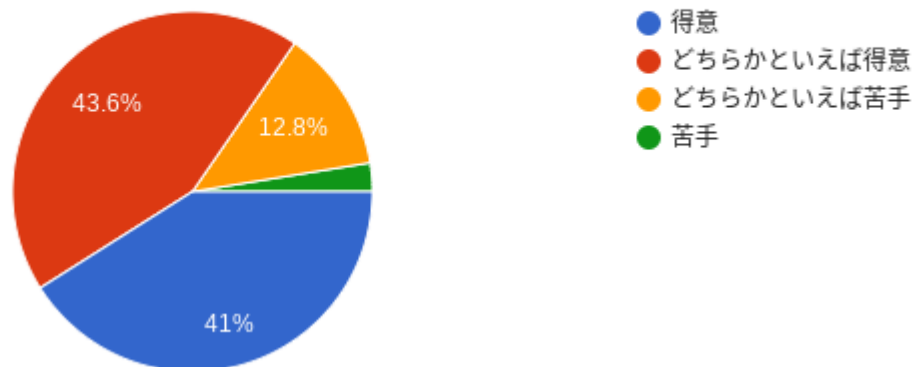
39 件の回答



問 2

想像をしながら本を読むことは得意ですか

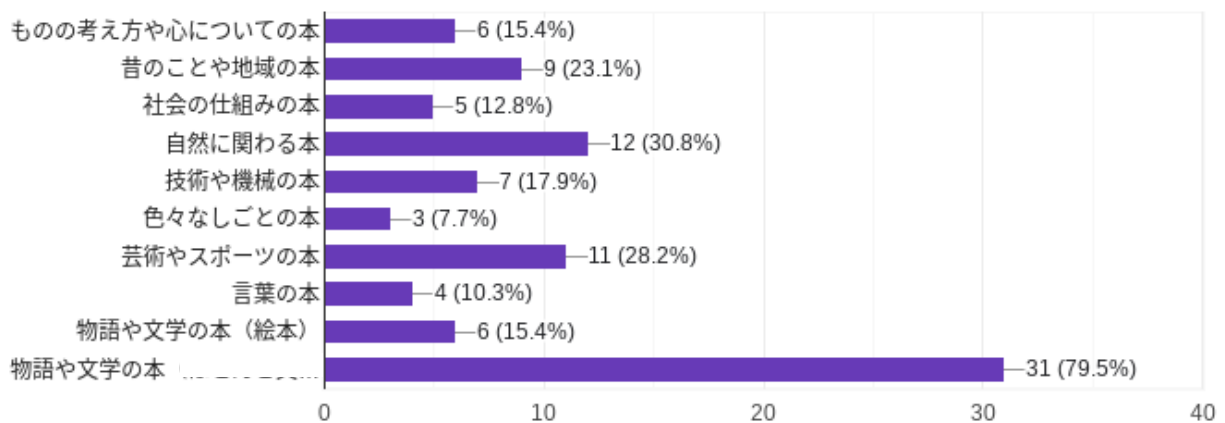
39 件の回答



問 3

普段どんな本を読んでいますか 複数OK

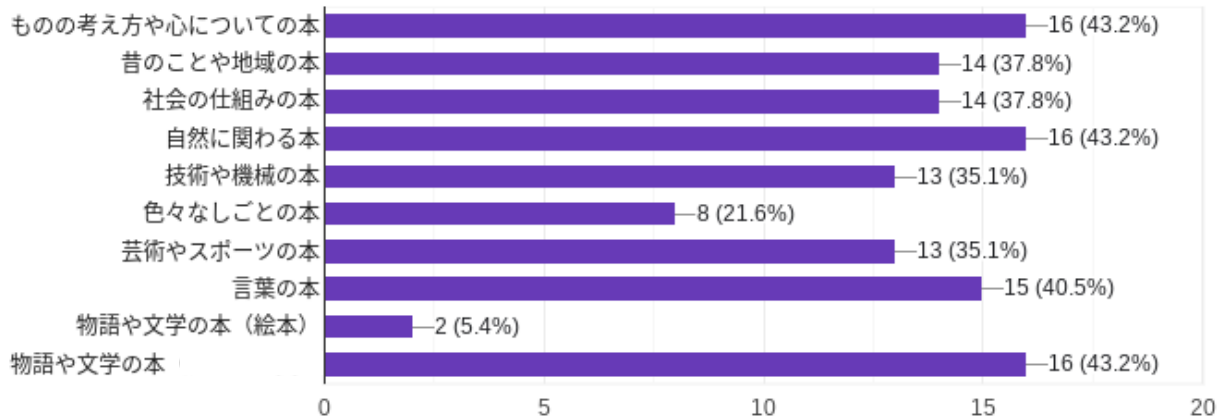
39 件の回答



問 4

どんな本を読めるようになりたいですか 複数OK

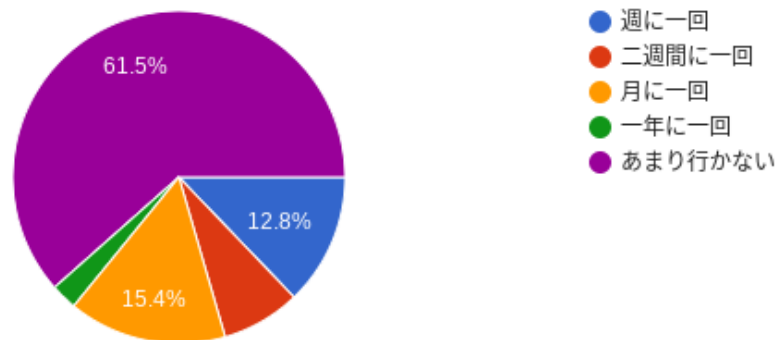
37 件の回答



問 5

近所の図書館をどのくらい利用しますか

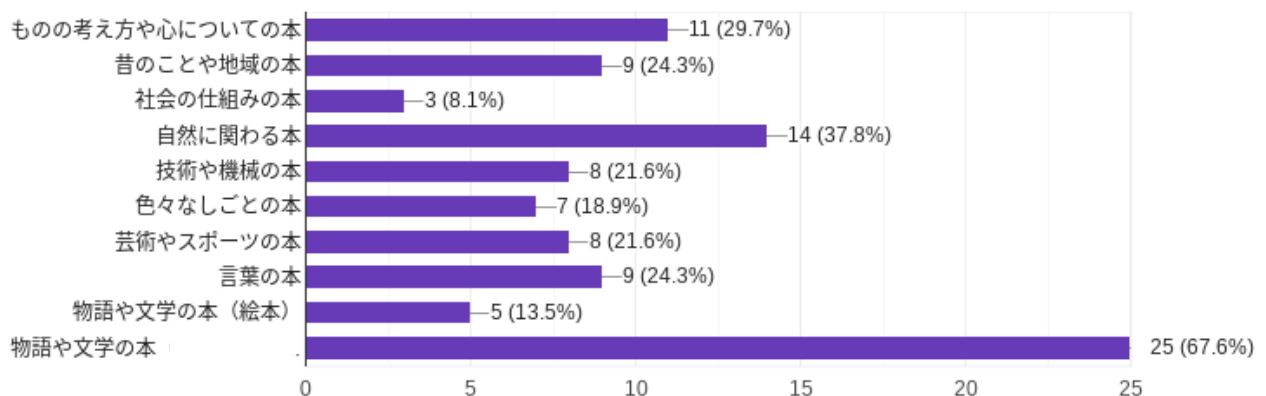
39 件の回答



問 6

図書館に行って読んでみたい本はありますか 複数OK

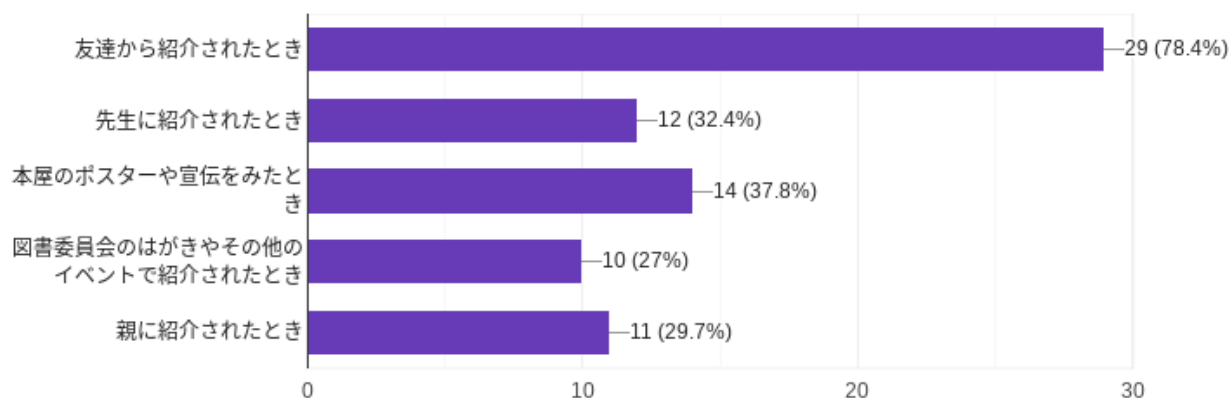
37 件の回答



問 7

あたらしい新しい本を読みたいと思うときを教えてください 複数OK

37件の回答



まず問1～3から本学級の児童は読書に興味を示す児童が多く、中でも物語を主として本に慣れ親しむ児童が多いと考えた。担任からみても、週に一回の読書の時間では、集中して本を読む児童が多く、読む内容に差はあるが本に対する抵抗は比較的低いと感じる。また、普段は読まない物語以外の本も読みたいということが問4から分かり、読むきっかけを授業の中で作ったり、多様な本を紹介したりする授業が有効であると考えた。

問5から本学級は図書館に行かない児童がとて多いことが分かった。行かない理由を児童に直接聞いてみたところ「インターネットで調べられる」「遠い」「どこにあるかわからない」という返答もあった。反面、いつも読み慣れ親しんでいる物語を近所の図書館でも読みたいと答える児童が多く存在することから図書館に興味を抱いていることが分かった。また児童は図書館には学校より多くの本が蔵書されていることは知っている。そのため、図書館に行く機会を作ることや、図書館の必要性に気付かせるような授業を展開することが有効であると考えた。

問7から、学級内の友達の紹介が新しい本に触れるきっかけになりやすいことが分かる。このことから多様な本を紹介し合う学習活動が有効であると考えた。

主題に迫る手立て

児童の実態を踏まえ、二つの手立てを考えた。

A 地域の図書館で本を借りてブックトークを行う

アンケートの考察で述べたように、地域の図書館に行くきっかけをこちら側が作るべきである。また地域の図書館に行くことが難しい場合においては、ゲストティーチャーとして地域の図書館の方に来校していただくことが考えられる。その上でブックトークを用いることが本学級に有効であると考えた。ブックトークとは、「ある一つのテーマにそって、複数の本を、順序よく上手に紹介する」ことであり、対象は年齢や人数を問わないものである。

ブックトークの目的は本に対する興味を抱かせることであり、紹介を受けた人がいろいろな本があることを知ることができ、紹介する本人が普段読まない本に触れるきっかけにもなる。これを地域図書館で行うことで、学校図書館より、多数多様な本が蔵書されていることを実感し、図書館員の方とコミュニケーションを自然にとることで、地域の図書館に足を運ぶきっかけになると考えた。

また、この活動をするにあたって教員側から「地域の図書館で本を借りてブックトークをしよう。」といきなり伝えないようにしたい。なぜならブックトークはあくまで本を知るきっかけとなる楽しい活動として捉えさせ、その活動をより多く本がある場所でやってみたいと主体性をもたせて行うことが「豊かな読書生活」につながると考えたからである。

B 国語科以外で学校図書館を用いた授業を行う

多様な本を読み、考えを広げられるような活動は、週一回の読書活動だけでは機会が少なく、読む種類も限られてしまう。どの教科でも目的意識をもって学校図書館を活用できれば、たくさんの種類の本を読みたいという児童が本を手取る機会を増やし、児童は考えを広げることができると考えた。その模索として、他教科と読書活動を絡めた教科横断的なカリキュラムマネジメントを図った上での学校図書館の活用を提案する。尚、本研究では特別な教科道徳と総合的な学習の時間を活用して読書活動を進めることとした。

A1 国語科 単元名

「ブックトークをしよう」

A2 単元の目標

テーマにあった本を紹介するために多様な視点から読書すると共に、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。

評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学ぶ態度
○テーマにあった本を紹介するために多様な視点から読書すると共に、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付いている。	○複数の本を読み比べながら、紹介したい本の内容や特徴を捉え、聞き手に伝えている。 ○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。	○自分の読書の傾向を把握し、ふれてこなかった文種を読む経験を通して、多様なものの見方や考えにふれ読書の意義を感じている。 ○言語活動を通して、読書の役割についての理解を深めようとしている。

A3 教材並びに指導方法について

ブックトークには大きく4つの行程がある。

①テーマを決める

テーマは自由で、身近な物から壮大な概念まで何でもよい。テーマを決めてから本を選んでもよいし、紹介したい本を決めてからテーマを考えてもよい。児童にはテーマのおもしろさで印象に残ることも伝えたい。また、テーマを自分で決めることができない児童も多くいると考えられる。そのような児童の手立てとして、多数思い付いた児童にテーマカードを配り、箱に集める。決められない児童は友達の知りたいたいテーマを箱からランダムに引き、参加できるようにする。

②本を選ぶ

司書がブックトークをする場合5～10冊が基本だが、児童同士のブックトークは3冊にし、より多くの人から本の紹介を聞けるように、簡単に紹介ができるようにする。ここで留意したいのは本の種類である。日本十進分類法で決められた10種類の内3種類から本を選ばせるようにすることで、たくさ

んの本の種類に触れられるようにしたい。

③構成・シナリオを考える

本を読み、どんな内容なのかをテーマを踏まえながら話す。その台本作りがこれに当たる。本を紹介する順番や、それぞれの本に費やす時間、共通するワードの提示の仕方、見せたい挿絵、興味の引くような場面の読み聞かせ等、様々な工夫が本を紹介する上であることを伝えていきたい。また工夫を知ったうえで、どの工夫を使うかも自由であり、自分に合った効果的な方法を模索させたい。

④実践する

本番前にリハーサルを行うことで、より自信をもって取り組ませることができる。本の内容を紹介するときはあらかじめ付箋を貼っておいたり、読みやすさや感想を正直に伝えたりすることで、熱意を感じられ、スムーズに伝わる紹介になることも伝えたい。

以上の事柄をできるだけ楽しそうに、遊びであるかのように伝えることで、できるだけ抵抗感なくブックトークを行わせたい。

A4 全体指導計画

月	◎学習のねらい ・学習活動	○指導上の留意点 ・評価規準・評価方法
9	◎ブックトークを知る。 ・ブックトークを紹介しこつを知る。 ・（「ブックトークをしよう」として）、本を友達と紹介し合うことを通して「色々な本を知る」という言語活動（ブックトーク）を設定する。 ・学校図書館でブックトークを試しにグループで行う。	○あらかじめ学校図書館の貸出記録を用意したり、最近読んでいる本を持参するように児童に伝えておいたりする。 【態度】授業観察 ・言語活動を通して、読書の役割についての理解を深めようとしている。 【知・技】ノート ・テーマにあった本を紹介するために多様な視点から読書すると共に、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。
10	◎ブックトークを通して多様な本があることに気付く。 ・学校図書館で班ごとにブックトークを行う。 ・これまでの読書生活で特に心に残っていた本を選び、その本のテーマやジャンルについて交流する。 ・これまでの読書生活で、あまり手に取ってこなかったテーマやジャンルの本について考え、これから読んでみたい本を選ぶ（並行読書）。	○実際の本を目にしながらかえることができるよう、家から本をもってきたり、学校図書館で授業をしたりする。 ○紹介する本によっては、読み終わるのに時間がかかる場合もあるため、実施時期の工

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の図書館で本を借りる。 図書館員のブックトークを聞いてコツを見つける。 ・ブックトークの構成を考える。 	<p>夫（土日を挟む等）、並行読書や朝読書を活用する。</p> <p>【思・判・表】ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の本を読み比べながら、紹介したい本の内容や特徴を捉え、構成を考えている。 <p>【知・技】ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマにあった本を紹介するために多様な視点から読書すると共に、読書が自分の考えを広げること役立つことに気付くことができる。 <p>【思・判・表】ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
1 1 本時	<p>◎ブックトークを通して、読書が自分の考えを広げることなどに役立つことに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の図書館で借りた本を用いてブックトークを行う。 	<p>【思・判・表】授業観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の本を読み比べながら、紹介したい本の内容や特徴を捉え、聞き手に伝えることができる。 <p>【知・技】授業観察・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークを通して、読書が自分の考えを広げたり深めたりすることに役立つことを実感できている。 <p>【態度】ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の読書の傾向を把握し、ふれてこなかった文種を読む経験を通して、多様なものの見方や考えにふれ読書の意義を感じることができる。
1 2	<p>◎目的意識をもって本を推薦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語「この本おすすめします」の学習をし、図書館に推薦文を送る。 	

A5 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・複数の本を読み比べながら、紹介したい本の内容や特徴を捉え、聞き手に伝えることができる。
- ・ブックトークを通して、読書が自分の考えを広げたり深めたりすることに役立つことを実感できている。

(2) 展開

	学習活動	*留意点	□評価
10分	<p>1 ブックトークのやり方の確認 Tブックトークのやり方は覚えていますか？ C覚えています。 Tブックトークの心得にはどんなことが書きましたか？ Cつなぎ言葉を使って本を紹介していきます。 C中身を見せて興味を引きます。 C分類を変えてたくさんの種類の本を知ってもらいます。 Tそうでしたね。では今日は図書館で借りた本について、ブックトークを通して紹介し合っていきましょう</p> <p>2 めあての確認</p>	<p>*言語活動のゴールを常に子どもたちと確認し、目的意識や相手意識を常にもてるようにする。 *予めアンケートを取って、紹介のテーマに興味がない人同士でグループを編成する。</p>	
	<p>ブックトークをして、本の世界を広げよう。</p>		
	<p>3 リハーサル T今日はいつもの班とちがうメンバーですね。実はアンケートを取って、あえて紹介のテーマに興味がない人同士でグループを作りました。 Cなぜそんなことするのでですか。 T今日のめあては、本の世界を広げようなので、普段興味があるものより、別の世界を見てほしいからです。今から時間を取るので一人でブックトークの練習をしてみましょう。興味をもってもらえるよう見せるページや何を伝えるか思い出しながら練習してください。</p>		
30分	<p>4 班ごとに図書館で借りた本でブックトークを行う。 Tそれではブックトークを行います。読んでみたいなど思った本はメモしておきましょう。ブックトークの初めと最後には必ず何をしますか？ C拍手をする。 T一生懸命本の内容を紹介してくれる友達の話をよく聞いてくださいね。 それでは、始めましょう。</p> <p>5 全体に伝えたい児童を推薦、自薦し、代表者がブックトークをする。 T興味のある本は見つかりましたか？ C見つかりました。</p>	<p>*ブックトークの内容のなかで読んでみたいと思った本をメモさせ、本単元後もさらに読書に親しむきっかけをつくる。</p>	<p>□複数の本を読み比べながら、紹介したい本の内容や特徴を捉え、聞き手に伝えることができる。 (思・判・表)</p>

	<p>Tでは、みんなの前でもう一度ブックトークをしたい方はいますか？</p> <p>Cやりたいです。</p> <p>Tどうぞ。</p>		
5分	<p>6 振り返り</p> <p>Tみなさんブックトークをしながらたくさん本を読むことができましたね。</p> <p>振り返りを書いて終わらしましょう。</p> <p>自分の読書を振り返ってみてください。</p> <p>新しく興味を持った本やテーマ、分類について意識して書いてみましょう。</p>	<p>*ブックトークをした感想を書くのではなく、友達のブックトークの内容について何を感じたか、何に気付くことができたかを書くよう声掛けをする。</p>	<p><input type="checkbox"/>ブックトークを通して、読書が自分の考えを広げたり深めたりすることに役立つことを実感できている。(知・技)</p> <p><input type="checkbox"/>自分の読書の傾向を把握し、ふれてこなかった文種を読む経験を通して、多様なものの見方や考えにふれ読書の意義を感じることができる。(態度)</p>